

巻頭言

40周年記念号発刊に寄せて

学長 山根 耕平

今年、大学は創立40周年を迎えました。新年には改めて建学の精神を確認し、「親和教育宣言」を行いました。7月には40周年記念式典を挙行了しました。また、これより先、昨年、プレ40周年記念事業として、学園を挙げて、音楽祭「アイダ」を公演することができました。すべてが、今年を節目の年として、新たな出発の年とするためでした。

ここにまた、40周年を記念して、本学の基本的な研究紀要である「論叢」を40周年記念号とすることができることは、本学の喜びとするとともに誇りにするところです。「論叢」自体も今年で40号になり、まさに本学の教育研究の歴史を体現しているものといえるからです。

今回の記念号には19本の論文が寄せられました。本学には他に各学科の研究紀要のほかにも、教育専攻科紀要、大学院研究紀要、さらに教育研究センター紀要など、多くの紀要があることを考えれば、教員の研究活動が活発であるといえ、まことに喜ばしい限りです。教員のFD活動の重要性が強調される時代ですが、その基礎となる研究活動がまず問われるべきでしょう。研究は教育活動の前提であり基礎であるからです。

大学は、いうまでもなく教育研究機関ですが、教育と研究には有機的なつながりがあり、ある意味で、相互的な関係にあります。研究を基盤としない教育は発展性がなく、教育と関係をもたない研究は、教育機関としての大学においては、効果的ではありません。

また、教員の不断の研究は教育に還元され、学生の成長に資するものとなると思います。さらには、そうした研究への意欲、態度もまた、学生に測り知れない影響を与えます。

今回、多くの教員から原稿が寄せられたことは、教育研究機関としての大学として当然だとはいえ、本学の将来にとっても、明るいことだと思います。大学としても、今後とも、教員の教育研究の環境整備に尽くしたいと考えます。

おわりに、12月に児童教育学科の井関眞欣教授が亡くなりました。先生は大学創立以来勤務された唯一の先生でした。ここに、紙面を借りてご冥福をお祈りするとともに、先生の大学の教育研究に対する、これまでのご功績に感謝と敬意を表したいと思います。